

# 現代家政の学び

現代家政の学び



# 北欧の住生活文化を学ぶ

～北海道当別町スウェーデンヒルズと交流センターの視察から～

田中 宏実\*

## 1. はじめに

2018年度、藤女子大学人間生活学部人間生活学科は新しく専修体制となり、「現代家政専修」が誕生した。本専修では多様なライフスタイルが広がる現代社会において「生活」を深く知るため、家族・衣生活・食生活・住生活分野について専門的に学ぶ。特に、大学がある北海道という地域特性から、北国の生活に関する文化的側面の学びについても大切にしていきたいと考えており、今回はその学びの一つとして、北欧の住生活文化について学ぶことをテーマとした。本論では2018年夏に実施した藤女子大学人間生活学部人間生活学科による当別町のスウェーデンヒルズとスウェーデン交流センターでおこなった北欧の国スウェーデンの住文化に関する視察内容を報告し、参加した学生（主に生活科学区分（現代家政専修系）で学ぶ学生対象）のコメントを用いながら学習内容について検討する。

## 2. 実施概要

2018年8月9日、大学生、大学院生、教職員の計19名で学園バスを利用し視察研修会を実施した（表1）。参加学生は2年生から4年生、大学院生が参加した。

視察内容すべての活動において、一般財団法人スウェーデン交流センター（北海道石狩郡当別町スウェーデンヒルズ ビレッジ内）に協力していただいた。

表1 見学の概要

実施日時：	2018年8月9日（木）
行き先：	北海道当別町スウェーデンヒルズ
交通手段：	藤学園マイクロバス
参加者：	19名（内訳：藤女子大学人間生活学部人間生活学科 2年生2名、3年生8名、4年生4名、職員1名、 教員2名 および 藤女子大学大学院生3名）
行程：	藤女子大学発 → スウェーデンヒルズ 交流センター着 → ①スウェーデンヒルズの成り立ちについての説明 → ②フィーカ体験 → ③スウェーデンヒルズ内見学と スウェーデンハウス（モデルハウス）見学 → 藤女子大学着

\* 藤女子大学人間生活学部

### 3. 視察内容

表1にある①～③までの視察活動内容と学生の感想について報告する。

#### ①スウェーデンヒルズの成り立ちについての講話

スウェーデン交流センター専務理事の杉野秀雄氏から、スウェーデン交流センターの成り立ちについてお話していただいた。1964年の石狩港の開発事業開始から1983年の財団設立の流れ、日野原重明博士らの北欧視察からの提案などの経緯からスウェーデン村の構想に至ったお話があり、まちづくりや福祉について学ぶ学生らが興味を持ちながら話を聞いている様子が見られた。

学生からは「私は2, 3年前にスウェーデンヒルズの存在を知ったが、1980年代から続いている文化ということを知った。以外と最近だと思った。福祉に地方を入れている北欧だからこそ、日本に持ち込まれたスウェーデンハウスの文化だということを知った。」(3年生), 「スウェーデンヒルズの成り立ちについて学ぶことができた、外国の住まいから日本人にとってもよりよい暮らしとなる住まいを見つけて、当別に輸入し、今のヒルズができたという。本場のスウェーデンの街並みを再現するために様々な協定が結ばれていることがわかった。」(3年生), などの声が聞かれた。

学生たちは知ることのなかった開発の歴史や、福祉の先進国であるスウェーデンのまちづくりや住まいづくりを日本に取り入れていこうとする当時の人々の活動や願いを知ることができた。

#### ②フィーカ体験

つづいて、フィーカ体験をした。フィーカとはスウェーデンの生活文化の一つで、1日の生活の中で午前や午後のひとときにコーヒーやお菓子をいただきながら休憩をする時間のことをいう。体験では3テーブルに分かれ、スウェーデンのお菓子やコーヒー、お茶などをいただきながらスウェーデン人の方々とお話をした。

学生からは「人間の文化的暮らしが実現されていて心にゆとりがある。現代の日本人に足りない部分が補えそうだった。」(2年生), 「日本でも取り入れてほしい文化だと思った。短時間でリフレッシュもでき、コミュニケーションが生まれるため、日常が楽しくなると思う。」(4年生), 「会社でもフィーカがあるところもあるそうなので、一休みできてとても良い時間だと思う。フィーカの時間に様々なアイデアが生まれそう。」(4年生), 「コミュニケーションを図る場となり、子どもの成長や家族、地域の人とのつながりを持つきっかけになると思った。日本でもそういった場があると良いと思う。集いやすい家のづくりを考えることも必要だとわかった。」(大学院生), などの声が聞かれた。

学生たちはスウェーデンの住生活文化を知るとともに、日本との暮らし方の違いについて気づき、自分たちの生活の一部としての取り入れ方についても発想を広げているようであった。



写真１ フィーカ体験の様子

### ③スウェーデンヒルズの街並みとモデルハウスの見学

スウェーデンヒルズとモデルハウスの見学では、スウェーデンヒルズ管理センターの仮屋雄二氏に案内をしていただき、説明をうけた。

学生からは「スウェーデンのモデルハウスは家全体が温かみがあって素敵だと感じた。窓のつくりや水回りなど、日本にはないデザインや構造だと思った。また、屋根の傾斜を利用して、窓が付けられていて、それもすごく素敵で憧れた。」（３年生）、「お家のつくりが優れているのはもちろんのこと、スウェーデンのインテリアが素敵な空間づくりに重要な役割を果たしていると感じた。」（３年生）、「外観が綺麗に統一されているため、まち並みが綺麗に見えた。どのような人でも快適に生活できる工夫がたくさんあって良いと思った。モデルハウスには収納がたくさんあって生活しやすいように思われた。同じような外観でもその家によって個性があって見ていて楽しかった。窓から見える風景がとてもきれいで写真のようだった。他にも階段の手すりが手にフィットするような形になっていたり、階段が彫ってあり、滑り止めのようにになっていたのが印象的だった。」（３年生）、などの声が聞かれた。

学生たちはスウェーデンヒルズの景観の美しさに感激し、モデルハウスのインテリアに魅了されるとともに住宅の優れた機能性も評価しているようであった。



写真2 スウェーデンハウスの外観（モデルハウス）



写真3 スウェーデンハウスの内観（モデルハウス）



#### 4. この見学を通して、学生が感じたこと

今回の視察を通した学生の感想についてまとめる。

2年生というまだ住まいについて専門的に学び始めた学生からは次のような感想が聞かれた。「光・あかりに興味があったが、家の一つ一つが美しいと感じた。住む人に合わせた優しい住宅だと思った。」(2年生①)。「スウェーデンヒルズについて全く知らず、北海道にこのような暮らしの形が実現されているのだと知った。今日来なければ、豊かでのどかな町の雰囲気や、町内の人々とのつながりを優先している暮らしの形やスウェーデンの文化や住宅の工夫等を知ることができなかったため、来て良かった。」(2年生②)。

住まいについて専門的に学んでいる3年生と4年生からは次のような感想が聞かれた。「スウェーデンについて身近に触れ、前よりもスウェーデンに興味がでて好きになった。スウェーデンハウスはもちろん。北欧の福祉や医療、教育など見習うべき点がたくさんあって、文化も本当に素敵でもっとスウェーデンについて知りたくなった。」(3年生①)。「実際に現地の方、スウェーデンの方と触れ合うことで、よりスウェーデンについてもっと知りたいという気持ちになった。」(3年生②)。「北欧住宅、雑貨に興味があったので、とても楽しかった。スウェーデンの方ともたくさんお話ができたし、今度旅行に行ってみたい。スウェーデンの住宅メーカーのインターンシップに参加してみようかなと思った。」(3年生③)「スウェーデンヒルズの成り立ちや現状、これからの課題点についてもお話を聞くことができて楽しかった。魅力的なヒルズに良い面もあれば不便な点もあるとわかってためになった。」(4年生)。

各学年での学びがあったことがわかった。特に2年生では、住まいのしつらいや景観を整えることの意義について学ぶことができた。また3、4年生は北欧住宅の意義や生活文化に目を向ける学生、福祉政策やまちづくりについて関心を持ち、課題についても気づく学生がいた。



写真4 スウェーデンヒルズ内レクサンド公園

## 5. まとめ

南北に細長く気候の違いがある日本では、歴史的にみて主に夏過ごししやすい住まいの形が一般的であった。そこで、気候が違う北海道では、気候風土の特徴から冬の暮らしを豊かにする独自の住文化を育んでいく必要があると考える。最近の北海道の住まいには、気候に近い北欧のインテリアなどを住まいに取り入れている様子も多く見受けられる。そのような視点からも、今回の視察を通してスウェーデンの建物や住まい方について学びを深められたことは、これから北海道の住文化を築いていく学生たちの将来にとって、よりよい経験になったのではないかと考える。

今後も現代家政専修の授業や研究では、北海道らしい住文化形成へ向け、冬の暮らしを豊かにするインテリアや装飾品、さらに住まい方等についての学びをおこなっていきたいと思う。

謝辞：今回の見学会にあたっては、一般財団法人スウェーデン交流センター職員の方々とスウェーデンヒルズ管理センターにご協力をいただきました。この場をお借りして皆様に心より感謝申し上げます。